

銅合金生簀を用いた 養殖事業者のパイオニア (有) 久保水産



高知龍馬空港から車でおよそ1時間半。中ノ島漁港は土佐湾に突き出る形の複雑なリアス式海岸に位置する。



▲久保栄作さん。漁船をコントロールしながら、さまざまな説明をしてくれた。

7000匹〜のカンパチが回遊している。船が近づくと給餌と認識して海面が上がってくる。

フロートに付着した藻や貝など

海中の銅網には汚れが無い。

▲フロート直下の海中の銅網には汚れの付着が一切見られない。

▲久保栄作さんの父親、久保隆邦さんが約30年前に初めて銅合金生簀を初めた時の写真。

▲銅網はこのような「ひし形金網」のような形状で編まれている。

▶生簀の四隅には、垂鉛棒を吊り下げている。これは犠牲防食作用を考慮した処置。

驚きのキレイさ／銅合金生簀

世界の水産業は、「漁業から養殖へ」という構造転換の真っ只中。世界の水産物供給の約56%を占めるまでに成長している。養殖は今や、持続可能な食料供給の柱になりつつある。だが、日本においては採算面や初期投資の大きさといったコスト面などを理由に思うように増えていない。

そんな中、日本で親子二代に渡っておよそ30年間、「銅合金生簀」を用いて、カンパチ養殖事業を営み、銅合金生簀の普及にも尽力している銅網生簀のパイオニア的存在「久保水産」が、その成果を評され、このほど「第52回日本銅センター賞」を受賞した。取材班は久保水産の養殖場にうかがった。

高知県須崎市、野見湾の入り口に位置する中ノ島漁港。沈降性の入り江と岩礁の多い山と絶壁が海に迫ったリアス式海岸だ。島が湾の入り口に位置し、外洋と湾内の両方にアクセスできる特徴のある地形となっている。湾岸から見える湾内には、生簀がいくつも点在している様子が見える。6月中旬、梅雨明けはしていなかったが快晴、汗ばむ気温の中、久保水産を訪問した。

「ほいたら、さっそく船に乗って行っちゃおか！」久保水産代表取締役の久保栄作さんに案内され乗船する。港から5分程度で久保水産の養殖場に到着した。

10メートル四方の生簀が4つ連結されている。生簀の足場直下にある黒いウキ（フロート）の海面と接している部分は、藻や海藻がびっしり付着しているが、海中の銅網には全し。メンテナンスも最小限で済みます。特に銅網は汚れが付着しないメリットは「淡水浴」を魚にさせなくて済むことですね。」

「通常の生簀だと、網に藻や貝などが付着します。そして、ハダシという寄生虫が発生するんです。この寄生虫を浸透圧の差で駆除するために淡水浴が必須になってきますが、あまりしたくはない作業なんです。淡水浴前の餌止め、そして淡水浴、その後、徐々に餌の量を戻していく……という作業をする」と数日間から1週間のロスがでます。時間的なロスもありますし、何より魚にかかる負荷も大きいんです。銅網だとこの淡水浴作業がほとんど発生しないのが、大きなメリットです」

年間出荷量はどのくらいですか？

「年間、7万から8万匹くらいですね。年によって多少ズレはあります。生簀は全部で14台。出荷後から稚魚が入ってくる間に、休ませるものもありますが、基本的にはフル活動ですね。生育期間に関しては大体、7月に稚魚を入れた生簀を次の年の8月に新しくスタートするので、1年ちよい、13ヶ月くらいです。生育期間はもしかしたら、日本で一番早いかもしれませんね」

養殖事業で一番のコストは餌代。通常のカンパチ養殖では出荷まで18ヶ月〜20ヶ月と言われているので、養殖期間が短ければ短いほど利益につながる。これも銅合金生簀での大きなメリットだ。

銅センター賞と今後の目標

——今回、銅合金生簀を用いた養殖の普及を後押しいただいた、ということで日本銅センター賞の受賞となりました。

く何も付着していない。「キレイでしょ。こうやって網が汚れないことが正義なんよ」。まさに百聞は一見にしかずとはこのこと。藻などが一切付着しておらず、ここまで銅網が綺麗だとは思ってはいなかった。この銅網は、三菱マテリアルの開発した「UR30ST」という銅合金で編まれている。66%の銅分を中心に、特性を引き出す元素を配合して構成されている。日本のみならず、世界中の養殖業で使用されているものだ。久保水産では久保栄作氏の父親が銅合金生簀を初め、あしかけ約30年間使用し続けている。

生簀内に目を落とすと、無数のカンパチが元氣よく回遊している。

「ひとつの生簀に7000〜8000匹くらいのカンパチが泳いでます。ここは、まだ入れたばかりの若いやけど……」久保代表が、おもむろに網で一匹掬ってくれた。当然ながらイキがいい。素人目にはしつかり肥えているようにも見える。

「最近、この湾にもサメが入ってきたけど、ウチの銅網だと喰い破られることもないんで、耐久性的にも安心なんよね」。一般的なナイロン製の網だと、サメの被害は甚大だが、銅網には耐久性に強いというメリットもある。

銅網のメリット

——ご自宅にお邪魔して改めてインタビューさせてもらった。

——実際に拝見して、銅網の綺麗さにびっくりしました……

「そうですね。本当にキレイなんです。網を引き上げて洗浄することもないです」

「普及のためというわけではないですが、たしかに世界中の養殖業者が視察に来ます。オーストラリアとかノルウェーならサーモン養殖業者、中国だと紅魚ですね。実際にウチの現場を実際に見てもらって、こういう場合はこうしてる、とか具体的に教えてますね。国内業者でライブバルが増えるという意味では、少しもったいない気もしないこともないですが……（笑）、大手の業者さんにも技術指導も含めて、技術情報などを共有しています。これからも、この銅網の養殖方法をさまざまな人々に教えて広めていきたいですね。本当に良いものなので。それに普及すれば、銅網の価格が下る可能性もありますよね（笑）」

——今後の目標などをお聞かせください。

「（銅網という）一番良い網を使っているので、一番良い魚を育てていきたいですね。そして、『銅網を使って育てた高知のカンパチ』というのをブランド化してみたいと思っています。」

有限会社 久保水産
代表取締役社長
久保 栄作 氏